

あいさつ

日高市立高根小学校

校長 吉原 敦子

まさかの時代がやってきました。いつかこういう事が起きるのではと、心の隅にしまっておきたかった現実が溢れてきました。子供の頃から聞いていた約100年前の「スペイン風邪」と同じだと一瞬にして感じたのは、私だけではなかったはずです。コロナ禍を生きていく子供たちに、「学校は、安全で安心な場所だよ。」「学校に来れば、平等である。」ことをどのようなかたちにして、「表現すれば伝えることができるのか」そして、「伝えて、実行していくこと」を毎日毎日、考え続けてきました。ふと気づくと、今やっていることは、「生きて働く知識・技能を身につけさせる外国語の授業作り～自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～」と同じであると気がつきました。

「コロナ禍だからこそ、生きて働く知識・技能を身につけさせる 学校作り」でありました。そのために、常に多角的に考え、多様性を持って生きていくことが求められています。

多様性とは、多々の民族が確固たるアイデンティティーを維持しながら、相互に尊重することで、最大の変化を促す傾向が歴史上の現象にみてとれるそうです。つまり、同種同列の集団に在っては、個人が個人である理由は失われていきます。各々がそれぞれに必要とされる社会では、個人が個人として尊重されることで、同時に他を尊重する心が生まれていくと言われています。

実際に高根小学校も多くのそれぞれのお立場の方々に助けをいただきながら、どうかここまでやってきたという気持ちです。どんなに心強かったことでしょう。進化する高根小学校を感じています。

だからこそ、～自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～を日本語で、英語でそして、高根小学校のよさを生かして、スペイン語やポルトガル語でも存分に個性を生かした、コミュニケーションをする時代がまさに「今」です。

コロナのワクチン接種で世界が揺れています。「何をしているんだろう。世界の大人たちは・・・」と思っている子供たちが数多くいます。私たちは、どんな時代がきても、未来を作る子供たちと共に、この世界を創造し進んでいく立場にあります。学校教育だからこそできることがまだまだあると感じています。

～子供たちのために～ではなく、～子供たちと共に～です。

